



令和 7 年度 SSH 成果発表会(平塚江南高校)に参加しました！

令和 7 年 7 月 17 日(木)平塚江南高等学校にて SSH 成果発表会が開催され、Super Principia から 3 グループがポスター発表を行いました。SSH 指定校では成果発表を行う際に、他校が発表する機会を設けてくれている場合があります。今後も他校での発表するチャンスがありますので、参加したいグループがありましたら、Principia 担当者までお声かけください！以下は、今回の発表メンバーと研究内容です。

【研究内容】

「量子力学における電子スピンと無線通信における SSB の類似性の研究」

3 年 5 組 川井 柊弥さん、3 年 7 組 船間 祥太朗さん

「サンドボックスゲームを利用した災害シミュレーション及び SNS の開発」

3 年 4 組 高橋 碧月さん

「天神島のプランクトン相の周年変化」

3 年 4 組 湯浅 実華さん

「量子力学における電子スピンと無線通信における SSB の類似性の研究」

Q: 会場の様子

校内で出来る身近な研究が多く、親しみやすかった。質問も横須賀高校と比較して多く出ており、こちらの質問にも丁寧に答えてくれ、こちらが発表している時も、ちゃんと聞いた上で掘り下げようとしてくれていて、発表しやすい雰囲気だった。

3 年 7 組 船間 祥太朗



Q: 後輩へ一言

「なんでこうなるんだろう」というような「？」を忘れないことが一番大切だと思います。これは、研究に対する意欲に大きく関わります。自分たちが不思議に思った、立証しようとしていたことを示すための方法は立ちにくいものですが、そのときも「？」に戻ると簡単に考えることができます。平塚江南高校の発表はどれも最初の「？」の芯がブレていないと感じました。

3 年 5 組 川井 柊弥

「サンドボックスゲームを利用した災害シミュレーション及び SNS の開発」



Q: 興味を持った発表

「生成 AI の出力文かを判別することはできるか?」という研究がとても興味深かったです。ChatGPT や Gemini などの生成 AI が出力した文章かどうかを判別するプログラムを GAS で作成するというものだったので、が見えない文字を用いることで AI かどうかを判別するという手法がとても斬新で良いと思いました。

Q: 発表をした感想

今回は他校での発表だったためポスターセッションのときより緊張しましたが自分の研究内容を他者に伝える楽しさを実感することができました。質疑応答を通じて様々な改善点が見えて自分では見えなかった課題に気づけました。同じ防災の分野の研究をしている方からの意見もとても勉強になり多くのものを得られました。

3 年 4 組 高橋 碧月

「天神島のプランクトン相の周年変化」

Q: 興味を持った発表

どの発表も校内研究で、テーマの自由度が高く魅力的な発表ばかりだったが、平塚江南高校生物部のフナムシの体色変化と視覚情報の関係についての研究は、自分が過去に部活で行った両生類の色覚研究と重なる部分がありとても興味深かった。

3 年 4 組 湯浅 実華



令和 7 年 9 月 5 日(金)セミナーホールにて SSH 三期申請に向けた運営指導委員会が行われました。参加者は次のとおりです。横国大…鈴木様、科学コ研…永山様、総研大…蟻川様、NTT…荒金様、横須賀市教委…坂下様、JAMSTEC…阿部様、JST…加藤様、谷口様、神奈川県教委…山下 GL、浅野指導主事、本校職員(13 名)